

笑顔があふれた修学旅行

今週は、季節外れの猛暑の日があるなど、寒暖差が非常に大きい週でした。また家庭訪問期間中ということで、保護者の皆様方には対応をいただき、誠にありがとうございます。さて、先週は3学年とも大きな行事がありました。3年生は、5月10日(水)から12日(金)まで奈良・京都への修学旅行を、2年生は11日(木)に県内各地にわかれて山梨探訪へ、1年生は10日(水)～11日(木)で鳴沢村にある緑の休暇村を宿泊場所として、富士五湖方面への校外学習を実施しました。各学年ともこれまで事前学習や準備を進め、この日を心待ちにしていたと思います。私は、3年生の修学旅行に参加させてもらいました。素晴らしい修学旅行にできたのは、3年生のみなさんが油断せずに行ってきた感染対策と保護者の皆様方のご協力のお陰だと改めて感謝しています。また、3学年の先生方のこれまでの準備や養護教諭の堀之内先生の尽力、添乗員さんの増員など旅行会社の方々の配慮にも感謝したいと思います。

この修学旅行を通して、3年生のみなさんは、本当に大きく成長したなど実感しています。様々な方々の思いと保護者の皆様方にも協力いただき、修学旅行ができたこと、そして旅行中も素晴らしい集団行動力で、発熱者や体調不良者など、途中で修学旅行をあきらめなければならない人などがなく、全行程予定通りに修学旅行ができたこと、本当に素晴らしいと思いました。また、みなさんの思いが通じたのか、天気にも恵まれ、修学旅行中は素晴らしい出会いや発見があったことと思います。たくさんの笑顔が見られた修学旅行でした。

私は、特に、修学旅行2日目の夕方に坐禅体験に行かせていただいた妙心寺退蔵院の僧侶の方の話が印象に残っています。人間は緊張や不安、ストレスを感じた時に無意識に呼吸が浅くなるので、腹式呼吸を意識して深い呼吸をすると落ち着いてきて、心も身体もリラックスできるそうです。坐禅は15分間、170人ほどの人数がいるとは思えないほどの静寂のなかで行い、僧侶が警策を持ちながら歩かれる足音だけが微かに聞こえるだけでした。体験の後の話の中で、妙心寺では3年間集中して修行を行うそうです。その間は、朝4時から清掃や読経、坐禅を行い、睡眠時間3～4時間の生活を送るそうです。スマホもテレビも新聞や雑誌も見ることができない生活を3年間送るのだそうです。普段、恵まれたもののなかに生きている私たちですが、不自由なことを感じると、幸せになれるチャンスがあると教えてくれました。「幸せに気づくチャンスがある」と言ってもいいでしょう。不自由があると、普段は感じられない何気ないことが、輝いて見えることがあります。五体満足は、すべてが手に入っている状態です。言うまでもなく、幸せです。しかし、初めからすべて手に入っているかゆえに、私たちは当たり前前の大切さを見失いがちです。幸せは、新しく手に入れることではなく、今、手にしていることに對して、感謝をすることです。そのことを忘れないでいたいと改めて教えていただきました。

3年生のみなさんは、今、中学校生活の集大成の一年を過ごしています。自分自身の未来をつくるには、今という瞬間を大切に精一杯生きることが大切です。過去は変えられないけれど、今を頑張ることで未来は変えることができます。周囲への感謝の気持ちを忘れず、毎日の授業、部活動の大会、学園祭や合唱祭、そして進路選択を迎える3年生のみなさんには、今回の修学旅行で学んだ「集団としての力」を忘れずに、今を大切にしていってほしいと思います。



<生徒の感想>

☆修学旅行のスローガン「バウム」を達成できたと思います。修学旅行はただ楽しいだけでは絶対に成功することはできないので、みんなで決まりを守ったり、助け合いをしたりして、絆を深めながらより良い修学旅行にすることができました。僕たちは班で行動しているときに何回か迷ってしまいましたが、みんなで相談しながらはぐれることなく目的地にたどり着くことができました。清水寺は思っていたより大きく、広く驚きました。一生記憶に残る思い出となりました。(3年2組 遠藤新大さん)

☆修学旅行を通して目標の「バウム」のように新しい年輪を重ね、成長することができました。これから年輪祭合唱祭など3年生として1, 2年生を引っ張り、全力で何かを行うときに、今回の修学旅行で学んだことを活かしていきたいです。(3年3組 金澤遥楓さん)

☆修学旅行を通して責任をもって行動することができ、コミュニケーションの取り方など前よりも成長できたと思います。奈良と京都はたくさんのお寺や歴史的なものが多く、それらに対する考えを深められたと思います。奈良公園でシカに追いかけられたり、宿で友達とずっと話していたことも印象深い思い出となりました。自分たちで考え行動していくように、これからもしていきたいと思います。(3年4組 平出扇季さん)

子育て談話室① ～人間関係は・・・～

現代社会は、情報があふれて、何が正しくて、何が価値あることなのか、ということが不易なのかなど、とてもわかりにくい時代となっています。この難しい時代に、“子育て”という一大事業を行っている保護者の皆様方に、私なりに大切にしたいほうがいいと考える『子育てのポイント』を提案させていただくのが、このシリーズです。少しでも皆さんの今後の子育てに役立てていただけるようなシリーズにしていきたいと思います。お付き合いの程よろしくお願いたします。早速ですが、保護者のみなさんへ問題です。

問題：()のなかに入る言葉は何でしょうか？

人間関係は()です。()は先に笑わない

正解は“鏡”です。「人間関係は鏡です。鏡は先に笑わない。」という言葉があります。自分が先に笑いかけないのに、人はほほ笑みかけてはくれない。自分があいさつの言葉かけをしないのに、人があいさつをしてくれるわけがない。実に意味深い言葉です。そして、さらにこの言葉をアレンジすると、こんなことも言えます。

子どもの()は鏡です。あなたの()の鏡です。

わかりますか？答えはたくさんあります。

ことば・・・子どものことばが「きつい」と思ったら、「あれ？私？」、「きついのかな？」

態度・・・子どもの態度が「人の悪いところばかり指摘する」と思ったら、「あれ？私？」、「子どもの悪いところばかり探しているのかな？」

顔・・・子どもの顔に「表情がない」「笑顔がない」と思ったら、「あれ？私？」、「人に表情豊かに接している？」「笑顔で接している？」

姿・・・子どもの姿に「活気がない」「元気がない」と思ったら、「あれ？私？」、「日々の生き方に活気がない？」「私が元気がないのかな？」

どうでしょう。私たちは、ついつい「あの子はまったく・・・」とすべてを子どものせいにして、子どもを正そうとしてしまいかちです。でも、みなさんは鏡を見て映っている自分の髪型がおかしかったら、鏡を直しますか？そうではなく、自分の髪型を直しますよね？これって当たり前ですよ。でも日々の生活の中では、鏡の中を一生懸命に正そうとしているときがあります。外から見ると滑稽ですが、本人にはなかなかわかりません。

かく言う私も、自分の子どもを見て、「あの子はまったく・・・、あっ、しまった！自分の姿か！」といつも自己反省をしています。